

昭和42年  
7月豪雨



平成11年  
6.29土砂災害



平成26年  
8.20土砂災害



平成30年  
7月豪雨



砂防堰堤と遊砂地



防災教育(出前授業)

令和6年度(第42回)

# 土砂災害防止「全国の集い」 in 広島

## 繰り返される土砂災害との闘い

～土砂災害の歴史や社会情勢の変化を踏まえた今後の取り組みを考える～

日時 令和6年6月6日(木) 13:00～17:00

会場 広島文化学園HBGホール

主催 国土交通省・広島県

CPD・CPDS認定講習

## 開催概要

### 開催主旨

日本は、地殻変動や火山活動などにより形成された地形の変化と、国土の約7割を占める山地・丘陵地が森林で覆われた自然の風景の美しさを持っており、自然という面からは大変恵まれている国です。しかしその反面、急流河川が多く、地質的に脆弱なため、台風や集中豪雨などの気象条件によって土砂災害が発生しやすい厳しい環境にあります。

特に、近年、気候変動に伴う集中豪雨の増加によって、日本各地で激甚な土砂災害が頻発しており、毎年、人的被害が発生しています。

このため、土砂災害による犠牲者ゼロを目指し土砂災害警戒区域等の指定や避難誘導のための様々な情報発信を行うとともに、「いのち」と「くらし」を守り国土を保全するための砂防事業を推進することが益々重要となっています。

広島県においても、これまで大きな土砂災害を繰り返し受けてきた歴史があり、近年では、平成26年8月の広島土砂災害、平成30年7月の西日本豪雨災害など、激甚な土砂災害が頻発しています。繰り返し発生する土砂災害から、我々は如何にして立ち向かっていくべきなのか、「平成26年8月20日発生 8.20広島土砂災害」から10年を契機に、災害伝承やまちづくりと連携したハード整備のあり方など、社会情勢の変化を踏まえた今後の土砂災害に対する取り組みを発信することを目的に開催するものです。

### 開催テーマ

## 繰り返される土砂災害との闘い

### ～土砂災害の歴史や社会情勢の変化を踏まえた今後の取り組みを考える～

### 開催日時

土砂災害防止「全国の集い」… 令和6年6月6日（木） 13：00～17：00  
現地研修会…………… 令和6年6月7日（金）

### 会場

土砂災害防止「全国の集い」… 広島文化学園 HBG ホール  
現地研修会…………… 平成26年8.20広島土砂災害（八木・緑井地区）、  
広島市豪雨災害伝承館、紅葉谷川庭園砂防施設、厳島神社・  
宮島の歴史的な町並みなど

### 対象

一般住民、行政担当者（国、都道府県、市町村）、砂防ボランティア、砂防工事関係者など

### 主催等

主 催／国土交通省、広島県  
後 援／内閣府、消防庁、文部科学省、厚生労働省、林野庁、全国知事会、全国市長会、全国町村会、NHK、（一社）日本新聞協会、（一社）日本民間放送連盟、（一社）全国治水砂防協会、（一財）砂防・地すべり技術センター、（一財）砂防フロンティア整備推進機構、全国地すべりがけ崩れ対策協議会、（一社）斜面防災対策技術協会、（一社）建設広報協会、砂防ボランティア全国連絡協議会、（NPO）土砂災害防止広報センター、（一社）広島県建設工業協会、広島県建設業協会連合会、（一社）広島県法面協会、（一社）斜面防災対策技術協会中国支部、（一社）広島県測量設計業協会、中国地質調査業協会、（一社）建設コンサルタンツ協会中国支部、（一社）全国治水砂防協会広島県支部、広島県市長会、広島県町村会、砂防ボランティア広島県協会、（公財）広島県消防協会、中国新聞社、中国放送、広島テレビ、広島ホームテレビ、テレビ新広島、広島エフエム放送、ちゅピCOM

### 連携行事

土砂災害防止「全国の集い」に併せて、下記の行事を実施。  
令和6年度 広島県砂防工事施工技術等連絡会 JMS アステールプラザ 4階 大会議室  
令和6年度 砂防ボランティア「全国のつどい」 広島市文化交流会館 3階 大会議室「銀河」

## 土砂災害防止「全国の集い」 6月6日(木)

12:00	<p>■開 場/広島文化学園HBGホール</p> <p>■ポスター展示『全国からの土砂災害対策 事例報告』</p>
13:00	<p>■開会式典</p> <p>1) 挨拶: 国土交通大臣、広島県知事、来賓(国会議員等)</p> <p>2) 土砂災害防止功労者表彰式</p>
13:55	<p>■報 告</p> <p><b>能登半島地震における土砂災害とその対応について</b></p> <p>国土交通省砂防部</p>
14:20	<p>■特別講演</p> <p><b>土砂災害がふるさとを襲った後の世界を生きていく</b></p> <p>講演者: 稲田幸久(作家)</p>
15:00	<p>■ポスター展示『全国からの土砂災害対策 事例報告』</p>
15:15	<p>■パネルディスカッション</p> <p><b>繰り返される土砂災害との闘い</b></p> <p>～土砂災害の歴史や社会情勢の変化を踏まえた今後の取り組みを考える～</p> <p>コーディネーター 松本浩司(NHK解説主幹)</p> <p>パネリスト 海堀正博(広島大学名誉教授)</p> <p>松井 憲(広島市豪雨災害伝承館副館長)</p> <p>廣本典子(元広島市立矢野小学校校長)</p> <p>平田 遼(広島県土木建築局砂防課長)</p> <p>コメンテーター 草野慎一(国土交通省 砂防部長)</p>
17:00	<p>■閉 会</p> <p>※出演者、プログラム名称等は予告なく変更となる場合があります。ご了承下さい。</p>

## 現地研修会 6月7日(金)

【半日コース①】 平成26年8.20広島土砂災害(八木・緑井地区)  
広島市豪雨災害伝承館

【半日コース②】 紅葉谷川庭園砂防施設  
厳島神社・宮島の歴史的な町並み

紅葉谷川庭園砂防施設、厳島神社・宮島の歴史的な町並み  
【1日コース】 平成26年8.20広島土砂災害(八木・緑井地区)  
広島市豪雨災害伝承館



紅葉谷川庭園砂防施設



広島市豪雨災害伝承館

## 土砂災害防止功労者表彰

国土交通省では、土砂災害防止月間（6月1日～6月30日）にあたり、土砂災害防止に関して顕著な功績があり、他の規範として推奨に値すると認められる個人または団体を「土砂災害防止功労者」として毎年表彰しています。

具体的な表彰基準は次のとおりです。

- ①土砂災害の発生に際し、地域住民の生命又は身体の保護に顕著な成果をあげたこと。
- ②土砂災害による二次災害防止に関する協力又は被災地域の情報提供、社会秩序の保全等の被災者支援活動に顕著な成果をあげたこと。
- ③土砂災害防止フェア、シンポジウム、講演会等をおおむね10年以上にわたり開催し、又は土砂災害に関する記録映画の制作、出版等を行い、国民の土砂災害防止思想の普及に顕著な成果又は功績があったこと。
- ④土砂災害に対する警戒避難体制の整備又は土砂災害防止対策事業の推進におおむね10年以上に

わたり努め、顕著な成果又は功績があったこと。

- ⑤砂防設備、地すべり防止施設等の土砂災害防止施設における美化、清掃等をおおむね5年以上にわたり行い、施設の維持管理に顕著な功績があったこと。
- ⑥土砂災害防止施設、渓流、斜面等の点検、監視等をおおむね5年以上にわたり行い、土砂災害防止に顕著な功績があったこと。
- ⑦土砂災害防止に関する研究、発明若しくは考案又は現場での開発を行い、土砂災害防止に顕著な成果をあげたこと。
- ⑧前各号に掲げるもののほか、土砂災害防止に関し顕著な成果をあげたこと。

令和6年度は、個人の部において3名が土砂災害防止功労者として表彰されることとなりました。

### 香月 智(かつき さとし) 氏 神奈川県横須賀市

#### 元防衛大学校副校長

氏は、砂防学に関して多数の研究業績をあげられ、特に鋼製砂防構造物について長年にわたり研究され、その知見は鋼製砂防構造物の設計手法に大きく貢献されている。

氏が行った鋼製枠砂防構造物の中詰材のせん断抵抗力に関する研究により、中詰材のせん断変形に対する抵抗性を検証するための推定式が提案された。氏の提案した推定式は、鋼製不透過型砂防堰堤の安定性を検証するための手法として、鋼製砂防構造物の設計資料として多く活用されている「新編・鋼製砂防構造物設計便覧」にも記載されており、鋼製不透過型砂防堰堤の設計に多大に貢献されている。

また、平成26年7月9日台風第8号により長野県木曾郡南木曾町読書地区（梨子沢）において発生した土石流をうけて国土交通省が設置した「梨子沢



研究発表する香月氏

流域砂防堰堤に関する検討会」の委員として、砂防堰堤の補強方法の検討に携われた。令和2年には、令和元年東日本台風により山梨県釜無川右支川大武川において発生した土砂流出をうけて国土交通省が設置した「富士川砂防堰堤構造に関する検討会」の委員として、被災した鋼製透過型砂防堰堤の対応方針の検討に携われ、砂防事業の推進、発展に尽力された。

## 木村正信(きむら まさのぶ) 氏 岐阜県大垣市

### 岐阜大学名誉教授

氏は、岐阜大学において、永年にわたり砂防学・森林保全学を研究し土砂災害に関わる研究業績を上げるとともに、国土交通省や岐阜県が設置した土砂災害に関する各種委員会等に数多く参加し、卓越した技術力と経験に基づき、技術的・学術的な面からの確な助言、指導を行う等、国・県の砂防行政において多大な功績をあげられた。

また、「岐阜県さぼう遊学館」の砂防学習指導員として、団体見学者を対象に、養老山地の砂防事業の歴史を紹介し、土砂災害対策の重要性の伝授や防災啓発に尽力されるとともに、岐阜県砂防ボランティア協会会員として、西濃地域を中心に土砂災害防止施設の点検に参加し、技術的な助言等を通じて、技術の伝授に尽力されるとともに、砂防行政の若手技術職員を対象とした砂防事業の現地研修会では講師を務め、技術者の育成にも尽力された。



砂防学習指導員として説明する木村氏

さらに、各種シンポジウムや会議において基調講演を行うとともに、養老山地を中心に治山治水の歴史を通じて、土砂災害防止に対する普及に向け、様々なメディアで活躍されている。

学術関係では、砂防学会、日本森林学会、日本緑化工学会等に所属し、砂防学会インタープリント委員会委員長、砂防学会理事等を歴任する等、学会の発展、国際交流に尽力された。

## 太田好紀(おおた よしのり) 氏 奈良県五條市

### 前五條市長

平成23年9月に紀伊半島大水害が発生したが、その際には、素早く五條市災害対策本部を設置し、また、防災無線を通じて住民への避難を呼びかける等、迅速に対応された。さらに、清水地区において大規模斜面崩壊が発生したことにより、すぐに奈良県知事に自衛隊の派遣を要請し、自らも被災地に赴き被災者救援活動に尽力された。

また、被災箇所の早期復旧と砂防事業の重要性を提言するにあたり、奈良県、和歌山県、三重県内の17市町村で構成する、紀伊山地の砂防事業の促進と継続を求める期成同盟会を平成26年8月に立ち上げ、その会長として国への要望活動を実施された。同年には、近畿直轄砂防事業促進同盟連絡会に加盟し、更なる砂防事業の促進を訴えられた。

その要望活動が実を結び、紀伊山地砂防事務所は新たに紀伊山系砂防事務所として存続すること



紀伊半島大水害の慰霊碑に献花する太田氏

なり、現在も直轄砂防事業が進められている。

平成29年8月、上記の同盟会解散に伴い、同年11月に紀伊山系砂防事業促進期成同盟会を設立し、設立から令和5年4月まで会長として、砂防事業の促進に多大な貢献を果たされた。

## 能登半島地震における土砂災害とその対応について (国土交通省砂防部)

令和6年1月1日に発生した能登半島地震における大規模な港湾、空港、海岸被害や土砂崩壊等による災害について、国土交通省による本格的な復旧が行われています。輪島市、能登町では、地震に伴って河道閉塞（土砂ダム）の発生が確認されており、その対策・監視状況など能登半島地震対応の最新の状況を報告します。

### 特別講演

## 土砂災害がふるさとを襲った後の世界を生きていく

#### 講演者

稲田幸久  
(いなだ ゆきひさ)

作家



作家。昭和58年広島県広島市生まれ。大阪教育大学大学院修了後、広島県安芸高田市職員として勤務し35歳で退職。戦国時代の中国地方を舞台に毛利軍と尼子軍が戦った布部山の戦いを題材にした歴史小説『風雲月路』（出版時『駆ける 少年騎馬遊撃隊』に改題）で第13回角川春樹小説賞を受賞。令和3年に小説家デビューを果たす。令和4年には同作で第12回広島本大賞を受賞。同年9月には県内約80か所の書店を自転車で回り書店員や読者に感謝を伝える「おれい旅」を実施。

小説家としての活動だけではなく、映画「ベルサーマ 声をなくした二人」を自主制作するなど、物語を伝えるための様々な表現に取り組んでいる。

稲田幸久著  
『駆ける 少年騎馬遊撃隊』  
角川春樹事務所



#### 《講演概要》

平成26年広島土砂災害で甚大な被害に見舞われた広島市安佐南区梅林学区。私が就学前から高校時代まで暮らしていた地域である。未明から降り続けた豪雨により、山沿いに建設された住宅地には土砂が押し寄せ、幾軒もの家屋が流されていった。そこに暮らしていた人々も巻き込んで。

その時、現場付近で暮らしていなかった私が災害を知ったのは翌朝のニュースによる。えぐられたように茶色い山肌がむき出しになり、麓にまで流れ込んだ土砂の塊が映し出されている。その映像を呆然と眺めた私は胸の奥がどンドン冷たくなっていく感覚を抱いた。

同級生が亡くなったことを数日後に新聞で知る。一緒に同じ時間を過ごした同級生が、今もう、この世には生きていないという事実。その事に衝撃を受けた。同時に、自分は生き残った側の人間であるとの意識が私の中に芽生えた。

ふるさとが破壊された後の世界をどのように生きるべきか。考えた私が出した答えはあきらめていた「小説家になる」という夢をもう一度目指すことだった。そして、今、私は小説家として活動をしている。私が小説家として生きることはふるさとを襲った土砂災害を背負い続けるということ。災害が身近で起こったら自分はどのように生きるだろうか、ということを考えるきっかけにしたい。

## 繰り返される土砂災害との闘い

～土砂災害の歴史や社会情勢の変化を踏まえた今後の取り組みを考える～

### 出演者

#### コーディネーター

**松本浩司** (まつもと ひろし)  
NHK 解説主幹



昭和60年NHK入局。函館、北九州、長崎勤務を経て報道局社会部で記者・デスクとして主に土砂災害・水害等自然災害の取材を担当。平成21年から解説委員。

阪神・淡路大震災や東日本大震災、トルコ大地震をはじめ国内外の大災害を数多く取材。土砂災害についても平成8年の蒲原沢災害以降、ほとんどの大きな災害現場を取材し、避難勧告をはじめとする市町村の対応や高齢者など要支援者の避難、土砂災害防止法の課題などについて解説してきた。

#### コメンテーター

**草野慎一** (くさの しんいち)  
国土交通省 砂防部長



■国土交通省 砂防部長  
平成元年 建設省採用  
平成20年 広島県土木局土木整備部砂防課長  
平成21年 中部地方整備局天竜川上流河川事務所長  
平成26年 中部地方整備局多治見砂防国道事務所長  
令和元年 鳥取県土木整備部長  
令和3年 水管理・国土保全局砂防部砂防計画課長  
令和4年 国土交通省大臣官房審議官(防災・リスクコミュニケーション担当)  
令和5年 水管理・国土保全局砂防部長

#### パネリスト

**海堀正博** (かいぼり まさひろ)  
広島大学 名誉教授



平成30年から令和2年まで砂防学会会長(現在は中四国支部長)。内閣府や広島県などの災害検証委員としても活動。

現在、広島大学防災・減災研究センター長・特認教授として土砂災害に関する研究を続けながら、広島県・広島市・東広島市など自治体と連携し、防災・減災の取組を推進している。

近年は、降雨と岩盤内地下水位・水圧の挙動の解明に力を入れている。

#### パネリスト

**松井 憲** (まつい けん)  
広島市豪雨災害伝承館 副館長



平成26年8月20日 広島豪雨災害で被災。被災住民で復興と防災の啓蒙を目的として「復興交流館 モンドラゴン」を開設し、被災者の心の復興、災害資料の収集展示、当時の状況や復旧復興の語り継ぎを行う。

令和5年9月、広島市豪雨災害伝承館開館副館長(防災事業担当)。防災士として、地域の人たちと語り継ぎや防災学習も行う傍ら、一般への災害伝承、防災学習指導、防災講演、防災アドバイザーなどの活動をしている。

#### パネリスト

**廣本典子** (ひろもとのりこ)  
元広島市立矢野小学校 校長



平成30年7月豪雨により、矢野の町および矢野小学校も甚大な被害を受ける。当時の校長として、学校の復旧・再開の陣頭指揮に努める。学校再開後は、未曾有の体験を余儀なくされた児童の心を育てることに主眼を置いた学校づくり・教育活動を進める。

翌年からは、校長研修会、教頭研修会、みんなで減災推進課勉強会、安芸区の民児協や社会福祉協議会、あきくボランティアスクールの学習会等の求めに応じて講演に出向いている。

#### パネリスト

**平田 遼** (ひらたりょう)  
広島県土木建築局 砂防課長



昭和60年生まれ、神奈川県出身。現職に至る前には、内閣府防災担当の職員として、平成29年7月九州北部豪雨や大阪北部地震、平成30年7月豪雨、北海道胆振東部地震等における被害情報の集約や政府が行う応急対策のとりまとめ等に従事。

このほか、国土交通省砂防部、北陸地方整備局、富山県庁等において土砂災害対策の計画立案、調整などに従事してきた経験を有する。

# 広島県の土砂災害

## ■広島県の地形

広島県は、中国山地南斜面に位置し、全域の約70%が山地で占められています。地形は、山頂部に広がる隆起準平原、東北から西南方向に密に走る断層谷群で構成されていることが特徴で、これらが河川の流れや盆地の配列に影響し、美しい渓谷や瀬戸内の多島海を形作っています。

中国山地から瀬戸内海まで、北から南へ階段状に高度を減じています。これらを大別すると、北から高位面(中国背梁面)、中位面(吉備高原面)、低位面(瀬戸内面)の三段の階段山地に分けられます。

階段山地が移り変わる部分では、急な崖が形成され、三段峡、二河峡といった景勝地を生んでいます。

特に中位面と低位面の境界部分は、沿岸部の人口密集地と接するため、土砂災害対策上の重要部となっています。



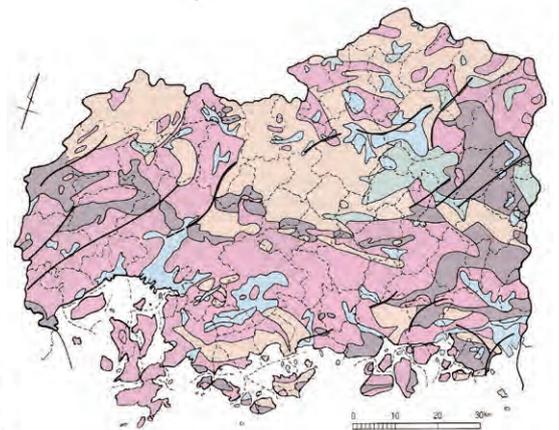
広島県地形概略図

## ■広島県の地質

広島県南部地域は、白亜紀の花崗岩が全域に分布し、谷筋には二次堆積した風化土などから構成されるルーズで未固結な崖錐性堆積物がみられます。

花崗岩の大部分は、粗粒の黒雲母花崗岩からなり、石英・斜長石・黒雲母などの鉱物から構成されています。各鉱物の膨張率などが異なるため、粗粒なものほど分離しやすく、また、黒雲母や斜長石は容易に風化作用を受け、二次鉱物として粘土鉱物に変質します。さらに、断層や節理などの割れ目に地下水が浸透すると、深部にまで風化作用が進み、深層風化帯を形成します。いわゆる「マサ土」がこの地域の地質的な特徴です。

崖錐性堆積物の厚さは数 m 以下であることが多く、花崗岩地域ではマサ土と崖錐性堆積物で土石流や斜面崩壊がしばしば発生します。



第三紀・第四紀層	第三紀層
	洪積層
	沖積層
流紋岩類	高田流紋岩類
安山岩類	吉舎安山岩類
花崗岩類	斑岩・糜爛岩類
	花崗岩類
	花崗斑岩類
古世層	古生層 (三疊紀層・白亜紀層を含む)

広島県地質図

## ■過去の主な土砂災害

### 昭和20年9月 枕崎台風

呉市では、17日午後から各河川や溪流が著しく増水している中、18時から22時までに113.3mmの豪雨となり、二河川の堤防決壊をはじめとして各溪流から土石流が発生し、全壊家屋1,162戸、半壊家屋792戸、死者1,154人にもなる大惨事となりました。



被災した大野陸軍病院

また、大野町の丸石川で発生した大規模な土石流が、下流部の大野陸軍病院を直撃し、180人近くの方が亡くなりました。

被爆惨禍の広島に再び訪れた枕崎台風の惨状は柳田邦男の『空白の天気図』に詳しい。また、甚大な被害を被った呉市では直轄砂防事業による災害復旧事業が実施されました。

### 昭和42年7月 豪雨

呉市では、前日の豪雨により地盤が緩んでいたところへ、7月9日に日雨量212.9mm、最大時間雨量74.7mmの豪雨が襲い、山崩れ、がけ崩れ、河川の氾濫が全市域で発生し、死者88人の大災害となりました。



呉市の被災状況

この豪雨災害が、「急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律」を昭和44年に国が制定するきっかけとなりました。

## 昭和63年7月 豪雨

被害は県北西部の安芸太田町に集中しました。梅雨末期の短時間の豪雨で土石流が多発し、死傷者25人、全壊家屋38戸の被害が生じました。特に、江河内谷川では大規模な土石流が発生し、死者10人にのぼりました。



江河内谷川で発生した土石流

## 平成26年8月豪雨

安佐北区の上原雨量観測局で1時間に115mmを観測するなど、広島市北部を中心に猛烈な雨が降りました。各所で土石流、がけ崩れが発生し、犠牲者77名（うち災害関連死3名）、負傷者68名、家屋全壊179棟、半壊217棟、一部損壊190棟、床上浸水1,086棟、床下浸水3,097棟という大きな被害が発生しました。

この豪雨災害が「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」を平成27年に国が改正するきっかけになりました。

## 平成30年7月豪雨

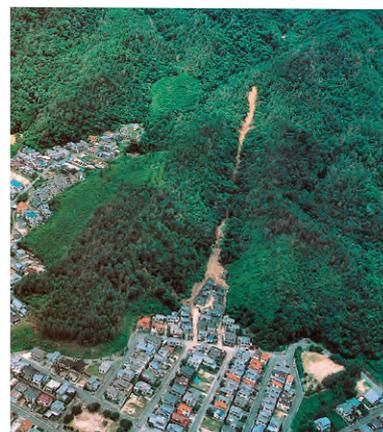
梅雨前線が日本付近に停滞し、台風第7号の北上に伴って暖かく非常に湿った空気が供給され続け、西日本を中心に全国的に広い範囲で記録的な大雨となりました。広島県では、7月3日から8日にかけて、7月の過去の最大月間降水量を超える雨量をわずか6日間で記録し、安芸太田町を除く22市町に広島県で初めてとなる大雨特別警報が発表されました。

県内では1,242箇所もの土石流、がけ崩れが発生し、犠牲者153名（うち災害関連死44名・土砂災害による犠牲者87名）、行方不明者5名、負傷者147名、建物等15,750棟（全壊1,176棟、半壊3,632棟、一部損壊2,183棟、床上浸水3,180棟、床下浸水5,579棟）などの甚大な被害が発生しました。

## 平成11年6.29土砂災害

広島市佐伯区で、最大3時間雨量144mm、最大時間雨量81mmを記録した猛烈な豪雨により、広島市、呉市を中心に、土石流139箇所、がけ崩れ186箇所等にも及び、死者31人、行方不明者1人、全壊家屋154戸等、大規模な災害となりました。特に、被害は都市近郊の新興住宅地に集中し、都市型の土砂災害として位置付けられ、「6.29豪雨災害」と呼ばれています。

この豪雨災害が、「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」を平成13年に国が制定するきっかけとなりました。



広島市安佐南区の被災状況



広島市安佐北区の被災状況



広島県安芸郡熊野町の被災状況

## ■土砂災害に備える

### ◎土砂災害ポータルひろしま

<https://www.sabo.pref.hiroshima.lg.jp/portal/top.aspx>

土砂災害の恐れのある区域を「知る」危険が迫っていることを「察知する」ひろしまの土砂災害を「学ぶ」ための機能や情報を提供しています。



### ◎土砂災害 啓発・伝承プロジェクト

平成26年8.20土砂災害の教訓を踏まえ、再び同じ災害を繰り返さないためには、土砂災害に関する防災意識の醸成を図るとともに、災害の記憶を風化させず、被災の事実を後世に伝承していく必要があります。

「土砂災害 啓発・伝承プロジェクト」では、土砂災害への防災意識を県民へ広く啓発することに加えて、被災事実を地域に確実に伝承していく取組を積極的に実施することにより、地域防災力の向上を推進していきます。



土砂災害 啓発・伝承プロジェクト(3本の柱)

**(目的)** 我が国の土砂災害による人命、財産の被害の状況にかんがみ、土砂災害に関する防災知識の普及、警戒避難体制整備の促進等の運動を強力に推進することにより、土砂災害の防止に対する国民の理解と関心を深め、土砂災害による人命、財産の被害の防止及び軽減に資することを目的とする。

**(期間)** 令和6年6月1日(土)から6月30日(日)まで  
(かけ崩れ防災週間:令和6年6月1日(土)から7日(金)まで)

**(主催)** 国土交通省、都道府県

### ◎主な実施内容

#### (1)土砂災害防止「全国の集い」の開催

#### (2)土砂災害防止功労者の表彰

土砂災害の防止について、顕著な功績があり、他の模範として推奨に値すると認められる個人または団体を表彰する。

#### (3)土砂災害防止に関する絵画・作文の募集、表彰

全国の小・中学生を対象に、土砂災害防止についての理解と関心を深めてもらうため、絵画・作文の募集を行い、表彰する。

#### (4)土砂災害防止に関する広報活動の実施

①都道府県、市区町村の掲示板の活用や広報誌等の各戸配布、回覧板、WEBサイト等への掲載など様々な手法を活用し、ハザードマップ又は基礎調査結果の公表や警戒避難の好事例の紹介等、土砂災害の危険性や住民自身による適時・的確な避難行動の重要性に関する啓発等の広報活動を行う。

②道の駅、コンビニエンスストア等との連携による広報や、「土砂災害110番」等の防災情報窓口の周知を実施する。

③新聞、雑誌、テレビ、ラジオ等の報道機関の協力を得た広報を積極的に実施する。

#### (5)土砂災害(特別)警戒区域等の土砂災害の危険性が高い箇所及び避難場所・避難経路等の周知・点検の実施

ハザードマップや現地表示看板等を活用して、土砂災害(特別)警戒区域等の土砂災害の危険性が高い箇所及び避難場所・避難経路等について住民等に周知する。その際、住民自身による適時・的確な避難を促すため、近年の土砂災害の実態や土砂災害の前兆現象等についても併せて説明する等、住民等の土砂災害の危険性に対する理解を深めるよう留意する。

また、土砂災害の実態等を踏まえ、住民、自主防災組織、砂防ボランティア等の各種団体、施設管理者、警察・消防等の関係機関と連携して点検活動を実施する。

防災部局等と連携して土砂災害に対する避難の安全性

について確認を行うとともに、土砂災害から安全に避難できるよう必要に応じて見直しや、定められた避難所への避難が困難になった場合に備え、近隣のより安全な場所へ避難をする「次善の策」の検討を行う。

#### (6)「土砂災害・全国防災訓練～避難の声かけ、安全の確認～」の実施

土砂災害発生時に関係機関で円滑に情報共有を図るための防災訓練を実施するよう促す。更に、地域で避難する共助の取り組み(家族や住民同士、要配慮者を含め支援が必要な方に対する避難の声かけ等)を構築するべく、防災体制強化のための啓発活動や訓練等を地域単位で実施し、警戒避難体制のさらなる充実・強化を図る。

#### (7)住民、教育関係者、小・中学生等を対象とした講習会、現場見学会、出前講座等の開催

土砂災害の現状や土砂災害からの的確な避難行動をとるための正確な知識を普及するため、住民、教育関係者、小・中学生等を対象にハザードマップや土砂災害警戒情報等を活用した実践的な防災教育、啓発を目的とした講習会、現場見学会、出前講座等を開催する。砂防ボランティア等の各種団体や関係機関等と連携して実施するなど、地域の実状に応じた効果的な方法で実施する。また、これらの活動を通じて、防災リーダーを育成すること。

#### (8)インフラツーリズムやSNSを活用した情報発信等

土砂災害を未然に防止する為のハード・ソフト両面の取組について、防災講演会、インフラツーリズム、現地見学会及びSNSによる情報発信等、幅広く広報する。

#### (9)要配慮者の把握、説明会の開催等

在宅の要配慮者及び要配慮者利用施設の避難体制整備に資するため、防災部局、福祉関係部局、教育関係部局等と連携し、あらかじめ在宅の要配慮者及び要配慮者利用施設を把握する。また、要配慮者利用施設の施設管理者に対する説明会等を開催するとともに、避難確保計画の作成や避難訓練の実施等について支援、助言することにより、警戒避難体制の更なる充実・強化を図る。

#### (10)砂防設備等の点検及び砂防指定地等の周知・点検の実施

砂防設備、急傾斜地崩壊防止施設及び地すべり防止施設の定期巡視点検及び安全利用に資する点検を住民、自主防災組織、砂防ボランティア等の各種団体、警察・消防等の関係機関と連携して実施する。併せて、砂防指定地、急傾斜地崩壊危険区域及び地すべり防止区域についても住民への周知及び点検を実施する。

#### (11)全国砂防関係工事安全施工管理技術研究発表会の開催

全国砂防関係工事安全施工管理技術研究発表会を実施する。



小学生の部

千葉県香取市立佐原小学校6年  
くぼきちひろ  
久保木千尋さん  
「土砂災害の死者ゼロへ」

中学生の部

千葉県香取市立小見川中学校2年  
おやまだ あゆむ  
小山田 歩さん  
「惨事を防げ! 砂防ダム」



## 土砂災害防止に関する絵画・作文 最優秀賞（国土交通大臣賞）（作文）

### 小学生の部

### 「私たちを守る砂防ダム」

愛媛県 松山市立道後小学校 5年 きたちななみ 北地菜々美さん

令和5年7月1日深夜2時21分、聞きなれない音が鳴りひびき、私はとび起きた。緊急速報メール。愛媛県土砂災害警戒情報警戒レベル4の知らせであった。外はバケツをひっくり返したような音という表現がふさわしい恐ろしさを感じる雨音であった。ニュースを見ると、石手川が氾らんする水位に達しているという。まだみんなが眠っている時間、そして大雨が降り続いている中の避難指示。テレビやネットから情報収集するしかなく、家から動けずにいた。

夜が明け、母が言った。

「うちの山はどうなっているのだろう。」私の家族は石手寺の裏山、常光寺町でみかんを作っている。昔、地すべりがあった地ばんが弱いと言われている山。母は幼い頃から、祖母や曾祖母から聞かされていることがある。

「大雨が降ったあとは、山へ近づくな。」周囲の山の人たちも、どの人もみんな同じ言葉を使う。命を守るために、昔から語り継がれてきた言葉なのだ。祖母に地すべりした当時のことを聞いた。30年以上前、松山市に300ミリを超える大雨が降り、近所の橋は流された。祖母の山のとりの園地で地すべりが起きた。倉庫は流され、長年大切に育て

てきた伊予柑の木が倒された。雨がやんでも、しばらくは何もやる気が起きなかったようだ。母とおばは土砂災害の経験はないが、語り継がれているこの言葉を信じ守っている。

この地に15年前、砂防ダム建設の話が挙がった。祖母は砂防ダムができることで、もし自分の山が崩れたとしても、下の集落へ土砂が流れる危険が少なくなると安心したようだ。砂防ダムは、水の力で土砂がけずられたり、大量の土砂が下流に運ばれるのをおさえ、土石流や流木を受け止めるはたらきがある。みかん山に行く途中に不透透型砂防ダムがある。これまで山の手伝いで何度も砂防ダムのそばを通ってきたのに、勉強をして改めて見ると見方が全く変わった。地形や土砂の流れを考へて作られた砂防ダムはどっしりとかまえており、土砂災害から守ってくれる安心感を覚えた。先日の大雨の時も、上流からの土砂や倒木を砂防ダムが受け止めていることを確認できた。

土砂災害から人命を守るためには何が必要か。大雨が降った時、気をつけていることを家族に聞いた。水路を流れる雨水をまず確認するそうだ。水はにごっていないか、今まで大量に流れていた水が急に減っていないか。そして遠くで倒木の音や今まで聞いたこと

ない音はしていないか、ゴゴゴと音を立てて流れる水音以外の音にも注意を払うらしい。次に、臭い。土臭い、臭いがないか確認するそうだ。これも語り継がれてきた土砂災害から身を守る防ぎ策。これに加えて、砂防ダムや溪流保全工、山腹工など防ぐ施設が大きな役割を果たすと感じた。

大雨のあと点検のため山へ行く時、母はいつも私と弟をぎゅっと抱きしめる。これまでどうしてだろうと思いつつ確認してこなかった。砂防ダムを見ながら母が「大雨のあとは、いつ地すべりがあるか分からないと思って山へ出かけるのよ。これで子どもたちを見られるのは最後かもしれない、と思って抱きしめるのよ。」

母のこの言葉を聞いた時、より土砂災害の恐ろしさを痛感した。いつも危険を感じながら仕事をしなければいけない環境はあってはならないと思った。私は土砂災害の経験はない。しかし、学ぶことはできる。昔の人の教え、土砂災害を防ぐ施設について、もっと研究し知っていきたい。山で働く人、また、そばで暮らす人が安心して過ごせるよう、日頃からアンテナをはりめぐらし正しい知識を身につけ、発信していける力をつけたい。

### 中学生の部

### 「復興のシンボル」

広島県呉市立天応学園 8年 とよしまかのあ 豊島叶愛さん

2018年、私の暮らしている地域・天応では西日本豪雨の影響で土砂災害が発生しました。7月6日、その夜も私は家族と一緒に夜ご飯を食べていました。雨がひどいとは思っていましたが家族と一緒にいるせいか、その時の私に「避難しよう」という考えはありませんでした。しかし突然車のクラクションが鳴り始めました。鳴り止まない大きな音を怪訝そうに父は外へ様子を見に行きました。「強い雨の音」と「車の大きなクラクションの音」に当時小学3年生の私は恐怖しかありませんでした。「避難しよう。」

それが戻ってきた父の第一声でした。私の家の前では持ち主のわからない車が土砂と共に流れていたのです。災害を警戒し、備えていた防災バックを母はすぐさま持ち出し、私たちは地域の自治会館へ避難しました。庭まで押し寄せている土砂は私の不安をふくらませました。避難する際、私たちは土砂の上を踏み歩きました。家具や文房具、日用品が混ざった泥の上を歩く感覚は今でも忘れられません。今、思い返すと「もしも」を警戒した防災バックはとても大切な備えだと思いました。迫る土砂に対しては、素早く行動に移せるかが一番、自分の命を守るために重要なことだと避難の体験を通して考えました。

自治会館に避難した後も雨は続きました。さ

いわい、私と同じよう避難してきた家庭の中には私の友達がいたため（みんな無事だったんだ。）と張り詰めていた緊張感がほぐれ、不安は減りました。

「怖いね。」

「うん、すごく怖い。」

降り続ける雨に怖さを感じながらも、隣で語り合ってくれた友達のおかげで、どこか安心する自分がいました。災害時「誰か」ということそれは心の支えになる大切なことだと思いました。実際に感じた心の支えを経て、もし現在の中学生である私が災害に遭った場合、避難所で取る行動は「誰かの心の支えになること」です。怖がっている小さな子や避難の際に恐怖を感じた人に声をかけて安心してもらいたいです。自分にできることを探し、実行することは避難所で求められる力だと考えました。

7月7日、朝目覚めると普段通っている道路や道が土砂の川になっていました。一歩足を踏み入れれば流されて死んでしまうと思ったほどの速い流れでした。背筋が凍り、息を飲みました。（ここは本当に天応なの。）とまるで別の世界に来たのかと感じました。普段からある光景や生活などの「あたり前」があたり前ではなかったのだとこのとき、気がつきました。

災害が発生してから2週間、私はずっと祖父の家へ滞在していました。両親と姉は復興に向

け、土砂をのぞく作業をしてきていたので、私は妹と2人でした。

「叶愛も手伝いたい。」

そう言っても小学生の私にできることは少なく、父に反対されました。（天応はどうなるんだろう、友達みんなは大丈夫なのかな。）と毎日思いながら一日でも早い天応の復興を願いました。

災害が発生してから2週間がすぎた日、私はやっと自宅へ戻ることができました。嬉しさと安堵で涙を流しました。そこにはたくさんの人への「感謝」の気持ちが混じっていました。自宅へ向かう際、まだ道路や道はいっぱい土砂が残っていました。それをたくさんの大人の人やボランティアの人たちが一生懸命に取り除いてくれていました。「シャベルとって」「こっちの土砂よけるわ」とみんなが協力し作業している姿を見て、本当に、心から（かっこいい。）と思いました。今でも天応の復興に向かってくれた人への感謝の気持ちは忘れません。

みんなの協力が天応を復興へと導いた事は本当にすごいことだと実感しています。だから私は誰かが誰かのために行動をするすばらしさを胸に留めて、復興のシンボル、天応で暮らしていきます。